

(7) 利岡小学校

学 校 長 濱口 明大
校内研究代表者 市原 百梨佳

1. 研究主題

「複式授業で学びを深める児童の育成」

2. 主題設定の理由

本校は平成 30 年度まで複式学級を有し、複式授業の授業改善や指導法の工夫といった研究を行ってきた。そして平成 30 年度には、思考力・判断力・表現力を育てるために言語活動に重点を置いた国語科の授業づくりの研究に転換している。

昨年度は研究主題を「複式授業で学びを深める児童の育成」とし、複式授業のスタンダードを確立するため、学習リーダーを中心とした主体的に学ぶ態度の育成と、「とも学び」の充実を目指した表現力と対話力の育成に重点を置いた。また、複式授業づくり講座の指定を受け、新学習指導要領による資質・能力を育成する国語科の指導方法を中心に研究し、見方・考え方を働かせる言語活動を取り入れた授業改善を図ってきた。その結果、児童は学習メニューによって見通しを持ち、自分たちで授業を進めるという意識が育っており、学習リーダーの指示に従いながらどの児童も学習に真面目に取り組むことができている。しかし、集団解決である「とも学び」については、まだまだ語彙が乏しく稚拙な表現しかできなかつたり、考えが深まらず多様な意見が出なかつたりと十分な学び合いとまでは至っていない。国語科の「見方・考え方を働かせる言語活動の設定」についても研究を始めたばかりで、追究の必要性を感じている。

そこで、今年度も引き続き研究主題を「複式授業で学びを深める児童の育成」とし、これまでの取組を継続させながら、言語活動の質を高め、国語科で身に付けるべき資質・能力を育むこととした。さらに今年度から全児童にタブレット端末が支給されることから他の ICT 機器、書画カメラ等を併せてどう有効活用していくかという点についても研究していきたいと考える。そこから、他の教科、全教育活動へとつなげ、児童の学力向上を目指したい。

3. 研究の進め方と方法

○企画 ― 計画立案（校長、教頭、研究主任）

○研修の進め方（毎週水曜日 15：00～）

第1週・・・校内研修

第2週・・・職員会

第3週・・・校内研修

第4週・・・校内研修

4. 研究内容

児童につけたい力



- ・学習規律 ・基礎・基本の力
- ・思考力、表現力、対話力
- ・学習リーダーとしての資質

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、複式授業の改善を図る

- ◆複式授業のスタンダードの確立と実践
- ◆国語科を中心とした授業研究

(1) 複式授業のスタンダードの確立

- * 単元計画・学習メニューの提示
- * 主体的に学習を進めるための板書やワークシートの準備
- * 学習リーダーの育成
- * とも学びの充実
- * ICT 機器（タブレット端末等）、書画カメラの有効活用

(2) 国語科の授業研究

- * 教材研究
 - ・ 導入の工夫
 - ・ タブレット端末の有効活用
 - ・ 同領域による同時指導の探究
- * 研究授業（各クラス領域を「話すこと・聞くこと」に統一）
 - ・ 西部教育事務所より池谷指導主事を招聘

(3) 授業改善・学力向上を目指した取組

- ① 上学年クラスの複式授業を児童が参観する。
 - ・ 1・2 年が 3・4 年の算数科の授業を参観
 - ・ 3・4 年が 5・6 年の国語科の授業を参観
- ② 複数教員による加力指導
 - * ぐんぐんタイム・・・習熟問題、応用問題、活用問題、発展問題
 - ・ 3～6 年に 1・2 年担任、特別支援学級担任、教頭も加わり、個別指導の強化
- ③ 教員の学び合い「みてみて週間」（期間は 1 週間）の実施
 - ・ 特別支援学級を含む各学級が 2 時間以上を授業公開
 - ・ 可能な時間に自由に参観
 - ・ 授業後、休み時間や放課後に意見交流

(4) その他の教育実践

- ① 確かな学力の習得
 - ・ 加力の時間の充実
 - ・ 家庭学習の習慣化と質の向上
 - ・ 標準学力調査、全国学力学習状況調査、高知県学力定着状況調査の結果分析と学習指導方法の工夫と改善
 - ・ 読書活動の推進
 - ・ 新聞投稿など新聞を活用した学習
 - ・ 発表朝会 … 1、2 学期に各学級 1 回ずつめあてを持った表現活動を行う。
- ② 心豊かな児童の育成
 - ・ キャリア教育の視点を踏まえた土曜授業や体験活動
 - ・ 人権教育と道徳教育の充実
 - ・ 挨拶運動（児童会、全校児童による縦割り班での活動）
 - ・ 仲間づくり（各種行事、定期的な全校遊びの実施など）
- ③ 児童理解について
 - ・ QU テスト実施と分析（年に 2 回実施・分析結果を踏まえ指導）
 - ・ 児童や学級の変容を継続的に追った実態報告の場と時間を確保し、共通理解をもつ。

④健康、体力づくり

- ・朝運動（わんぱくタイム）の実施…マラソン、縄跳び、ラジオ体操、一輪車、柔軟など
- ・生活がんばりカード
- ・歯みがきブラッシング指導、フッ素洗口

⑤その他

- ・地域との連携・協働（学校地域支援本部事業・・・書道、絵手紙など）

5. 今年度の成果（○）と課題（●）

〈複式授業のスタンダードの確立と実践について〉

- 児童が声を掛け合って、リーダーの役割を確認しながら学習を進めることができている。
- メニューボードを見ながら学習を進めていくことが身に付き、リーダーを中心に意見を出し合うことができている。
- とも学びでは、友達の意見を自分の考えと比べながら聞くことができている、学び合おうとする態度が育ってきた。自分の考えを理由づけて説明したり、自分が理解、納得できるまで友達に説明を求めたりという話し合い活動ができている。
- 自分たちで学びを深めていくための手立てをどのようにしていくか。
- スムーズな「わたり」を行うために、複数の支援の必要な児童に対し、どのような支援方法が考えられるか。

〈国語科の授業研究について〉

- 学習の流れをパターン化することで、自分たちで課題を持ち、解決していくことができるようになってきた。
- 単元ゴールや指導計画を掲示して児童が見通しをもてる授業づくりができ、児童は単元を通して身に付けるべき力は何なのかを理解した上で学ぶことができている。
- 単元の終末には、導入時に確認した「身に付ける力」が、単元の学習を通して身に付いたか振り返ることができた。
- 「話すこと・聞くこと」の領域において、タブレット端末を活用することで、「可視化する」「評価する」ことを児童自ら行うことが可能となり、学習意欲の向上と学びを深める手立てとして有効であった。
- 同領域同時指導の授業実践を行い、複式における国語科授業づくりの新たな取組ができた。
- 外部講師を招聘しての3回の研究授業で、高い評価を講師からいただくことができ、複式における国語科授業づくりについては一定の成果が上がっていると考えられる。
- 文章力、表現力が乏しいことから、語彙指導を改善・充実させる取組が不可欠。

〈授業改善・学力向上を目指した取組〉

- 上学年の授業を参観後、リーダーとしての自覚や意欲が高まり、自分たちで学習を進めていくことや学習態度において児童の変容が見られた。
- 加力指導において、複数教員が指導に入ることで、児童個々の課題にじっくりと対応できる。また他学年の指導に入ることで、重点化すべき指導課題などが把握でき自身の学級での指導につながっている。
- 複式授業の進め方は、話を聞くよりも実際に授業を観る方が理解しやすい。「みてみて週間」の実施から、教員それぞれが今後の授業に生かせる学びを得た。
- 上学年の授業参観を1学期に行うことで、早期に意欲化を図る必要性を感じた。
- 「みてみて週間」を2週間に拡大して、観て学ぶ側にゆとりを持たせることが必要。